



農業委員会研修視察報告

始まりは

「増えていく荒廃農地をどうしよう」「なんとか雪を活用できないか」

の思いから

平成30年

飯山そば振興研究会 発足

昨年視察に行った雪室の中に「飯山そば振興研究会」さんの玄そばが入っていると聞き、お話を伺いに行きました。

荒廃農地にそばを作り6次化まで進めようと立ち上げた飯山そば振興研究会(会長丸山富治さん)の「休憩小舎さんべ」と「北信州いよいよまそば製麺所」は、飯山市福島地区三部にあります。近くには映画「阿弥陀堂だより」のロケで使われた「阿弥陀堂」があり、そこからの景観はとても素



▲情報委員会の委員が雪室前で説明を受けている



▲夏でも消えない雪室の中の万年雪



▲一面に咲いているそばの花



▲水車小屋にある石臼でゆっくりと時間をかけて挽いています

「雪室熟成そば」を提供している会員店 R29.1 現在



- ・そば一 (瑞穂福島) ※予約のみ ☎ 090-2496-7184
- ・六兵衛 (飯山鉄砲町) ☎ 0269-62-4359

晴らしく山と棚田と相まって別世界のようでした。福島棚田は江戸時代に開発された自然石で組まれた棚田で「日本棚田百選」にも選定されています。現在の会員は17名、刈り取り面積も当初は5・4畝でしたが、本年度は18畝ぐらになりそうな見通しだそうです。

令和2年8月現在、雪室の中に玄そば22・5kg、59袋が入っています。雪室の中は気温3・4℃(外気温は26・8℃)湿度90%、雪室の真ん中には一昨年に入れた雪が残っていて毎年新しい雪を入れていきます

が、夏になってもまるつきり消えることはなく万年雪になっています。他には、お酒・りんご・ピーツ(ど)のぐらい、品質が保てるか試験中)が入っていました。一昨年9月のそば打ち体験教室に参加した30名の中に、3歳ぐらいのお子さん連れのご夫婦がいて、普段はそばを食べないお子さんが、一人前をペロツと食べた大変喜んでいただき、「これだ!『雪室熟成そば』でいこう!」と確信したそうです。

また、昨年の8月には「銀座NAGANO」にて、18名のそば好きの皆さんに食べ



が、夏になってもまるつきり消えることはなく万年雪になっていきます。他には、お酒・りんご・ピーツ(ど)のぐらい、品質が保てるか試験中)が入っていました。一昨年9月のそば打ち体験教室に参加した30名の中に、3歳ぐらいのお子さん連れのご夫婦がいて、普段はそばを食べないお子さんが、一人前をペロツと食べた大変喜んでいただき、「これだ!『雪室熟成そば』でいこう!」と確信したそうです。

いろいろな取組みの中で将来に繋げていくために、そば打ちの育成をしようと「そば道場」が令和元年から開催されています。毎月1回、1年間(計12回)受講して修了とのこと。本年度は6名の修了者がいて、修了式と第2期の受講者の開講式が8月に行われたとのこと。第2期受講者は、二八そば、受講生6名、富倉そば8名参加)会長の丸山さんは、「豪雪地帯で雪は邪魔だという悲観的な捉え方があるが、そうじゃない雪があるおかげで夏に美味しいそばが食

情報委員会 酒井智恵子



ひとりごと

柳原地区
農地利用最適化推進委員
山田 藤吉

あぜ道だより

高齢者の勝手な「ひとりごと」である。

里山の農地調査では農地の遊休・荒廃が急激に進んでいる。農道は荒果て、頻りに利用しているけもの道があちこちに確認できる。獣により作付けを諦める農地が増える。ハクビシン・猪・鹿・熊などが大量増殖し里山を実効支配している。最近集落内部まで勢力を伸ばし我が者顔で闊歩する。獣に侵略され自家用野菜も作れなくなってきている。人間がオリの中に生活圏を求めなければならないのか? 動物愛護も必要だが地域を守る住民保護を優先すべきだ。鳥獣被害対策費を大幅に増やし、狩猟免許者の育成も含め集中的な捕獲大作戦を望みたい。

田んぼに人影が無くなった。営農組合や大型農家への集約が進み大型機械での効率的作業が功を奏したからだ。ただ、基盤整備ができてない水田や里山の農地は年々荒廃が進んでいる。昭和40年頃から始まった基盤整備と近代化事業で画期的に農業・農村は生まれ変わり活気に満ちていたが、既に40年以上経過した。基幹用水施設も老朽化が著しい。人手が入らなくなったことも拍車をかけ、用水路も排水路も損傷が多いため、干ばつ時には水不足で苦勞する。また、農地の集約化が進む中、中山間地等の条件の悪い農地は担い手組織から切り捨てられていく。中長期的には大型機械が入れること、水利が良いこと、乗用またはリモコン操作で草刈り等全ての作業ができる圃場条件が必要だ。用水や中山間の土地改良事業で再度の基盤整備を検討すべきだ。集約化と里山の荒廃で地権者は農地への執着が少なくなり、相続放棄もあり得る状況での再基盤整備には課題が多いが、この地を守るためには皆で知恵を出してもらいたいものだ。

高齢化や後継者不足で農業が衰退していると言うが、我が子に農業に就いて欲しいと望む親は多くない。猫の目農政と農協による護送船団方式で誘導されてきた農業に活路がみえないからだ。政府から見放された農協は「俺等が創った農協」から「農協さん」へと変貌し、本来の機能を失いつつある。反面、産業としての農業に注目する企業もある。地域を守り維持させるためには、地域の中からの農業経営者の育成が必要だ。飯山市では人材育成の取り組みを始めた。この取り組みにより、意欲と知恵とズクが全てお金に結び付く起業の観点で、地の利を活かした農業を再構築する事は可能だろう。地域内の農業者の存続で、この地域環境を将来に渡って守って欲しい。

あしあと 7・8月の活動記録

- | | | | |
|-------|-----------|------|-----------|
| 7月10日 | 農業委員会役員会 | 8月6日 | 農業委員会役員会 |
| 29日 | 7月農業委員会総会 | 7日 | 管内研修視察 |
| 〃 | 情報委員会 | 27日 | 8月農業委員会総会 |